

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、シェイクスピアの『ソネット集』と代表的な劇作品の中に表れる詩をいくつか取り上げて精読する。『嵐』において、父を嵐で失ったと思ったファーディナンドに空気の精のエリエルが呼びかける歌、「君の父君、5尋の海底」。『冬物語』において、オートリカスが春の到来を喜んで歌う歌、「水仙が顔を出す頃」。『ハムレット』において、狂ったオフィーリアが歌う「どうしたら見分けがつくの」。『オセロー』において、夫から不貞を疑われたデスデモナが歌う歌、「柳、柳、柳と歌おう」。『空騒ぎ』からは、男心の移ろいやすさを歌った歌、「もう溜息はつかないで」。『真夏の夜の夢』の中で妖精パックが歌う様々な歌。その他。学生には韻律、イメージ、言葉の意味、劇の中での役割などを個人またはグループで分析・議論・発表してもらう。

2. 授業の到達目標

- 1) 英詩の韻律を修得する。
- 2) 英詩におけるイメージの分析方法を学ぶ。
- 3) シェイクスピアの代表的な劇作品を学ぶ。
- 4) ソネットという詩の形式を学ぶ。
- 5) 西洋またはイギリスにおける文化的伝統を学ぶ。

3. 成績評価の方法および基準

積極的な授業参加30%、発表40%、授業内コメント提出30%

4. 教科書・参考文献

参考文献

対訳 シェイクスピア詩集 岩波文庫

ソネット集 岩波文庫

5. 準備学修の内容

扱う劇作品を日本語で通読しておく。発表のためにはテキストと批評書を読み、グループまたは個人でパワーポイントの準備を行う。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

- 【第1回】 ウィリアム・シェイクスピアとは
- 【第2回】 ロマンズ劇の中の詩—『嵐』より「骨は珊瑚、目は真珠」
- 【第3回】 ロマンズ劇の中の詩—『嵐』より「人生は夢」
- 【第4回】 ロマンズ劇の中の詩—『冬物語』より「水仙の歌」
- 【第5回】 ロマンズ劇の中の詩—『シンベリン』より「もう恐れなくて」
- 【第6回】 悲劇の中の詩—『オセロー』より「デスデモナの悲嘆」
- 【第7回】 悲劇の中の詩—『オセロー』より「最後のキス」
- 【第8回】 悲劇の中の詩—『ハムレット』より「狂気のオフィーリア」
- 【第9回】 悲劇の中の詩—『ハムレット』より「オフィーリアの溺死」
- 【第10回】 喜劇の中の詩—『恋の骨折り損』より「男心は移ろいやすい」
- 【第11回】 喜劇の中の詩—『真夏の夜の夢』より「恋の媚薬」
- 【第12回】 喜劇の中の詩—『真夏の夜の夢』より「駆け巡る妖精パック」
- 【第13回】 喜劇の中の詩—『十二夜』より「子供だった頃」
- 【第14回】 まとめ: 英詩の韻律
- 【第15回】 まとめ: シェイクスピア、ルネッサンスという時代